

協調学習アクション・リサーチプロジェクト

6月28日 協調学習体験型半日ワークショップ第3回

「学んでどういうこと? -学びの科学 基礎の基礎-」 ご参加の皆様

2009年7月31日

ご報告

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム
特任助教 宮原 詩織

6月28日は協調学習体験半日ワークショップにご参加ありがとうございました。ご報告と、皆様にご書いていただいたワークノートのご返却が遅くなってしまいました。コンソーシアムとしてはその後、中学校と高校の先生を対象にした出張ワークショップ(7月9日)と、教科書のあり方を問い直すシンポジウム(7月26日)を行いました。そちらにも参加くださった皆様、ありがとうございました。

6月28日のワークショップの際、皆様から回収させていただいたワークノートをもとに、当日の様子を少しまとめてみました。ご自身のワークノートと一緒にいただき、当日を振り返る素材として頂ければ幸いです。

まず、「協調学習の役割」に関して、最初に選んでいただいた選択肢と最後に選んでいただいた選択肢とを比べてみますと、**図1**のように、最初は「話し合っているうちに、参加している人それぞれの考えがはっきりしてくる」を選んだ方が多かったのが、最後は「他の考え」を選んだ方が多くなっていました。

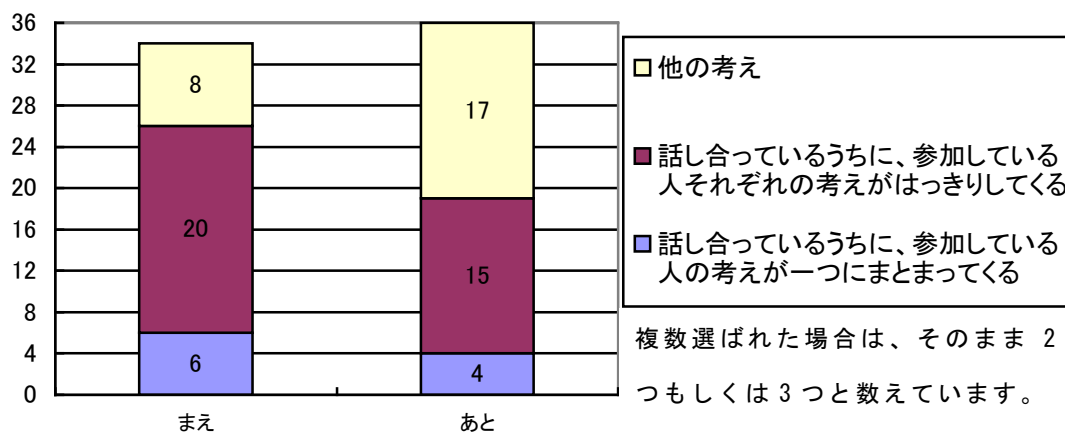


図1 ワークショップ前後に「協調学習の役割」について選んでいただいた選択肢

「あなたの考えに近い方に○をつけてください」というお願いに対して、最後にご自身の言葉で表現される方が増えたことには、皆様が読んだ内容をご自分の言葉で説明する活動を繰り返したことも影響したのではないかと、思います。「他の考え」を選んで、自分の考えをより適切に表現したいと考えてくださる方が増えたことは、実施側としてありがたいことです。ワークショップの内容を咀嚼する活動を通じて、設問や選択肢を、ご自身で捉えなおすということが起きたからではないかと、思います。

「他の考え」を選んで記述してくださった内容を表1のように挙げてみますと、話し合いを通じて他者との差異を認識することに言及した方や、こちらで用意した選択肢を融合したり、発展させたりしていらっしゃった様子がわかりました。

表1 ワークショップ後に「他の考え」を選んで記入いただいた内容

差異や他者に言及
自分の考えを認識し、他人との違いを認識して新しい自分の考えを持つようになる
合意形成へまとめる必要があるのであれば、そういう動きが出るでしょうがそうであっても心の奥では、何かモヤモヤしたものがあり、違いが感じられるのではないかと思う
互いの差異に気付くことを条件に、それぞれの考え方がはっきりしてくる
話し合っているうちに、それぞれの考えの違いがはっきりとわかり、本質的な共通点を見つけることができる
共通点や差異点がはっきりすることによる抽象化がすすんでくる
自分の持ってなかった背景も使って考えられるようになる
人に説明することによって自分が理解する。説明すると思うとまじめにきく
選択肢の融合や発展
話し合うことで新しいよい考えに高まって、一つにまとまる
考えをはっきりさせ自分の中に取り込み選択する
考えが深まる
考えをはっきりさせたいうで一つにまとまる

そのほか、「自分の知識の確認と修正ができる利点」「話し合っているうちに、新しいイメージがうまれた」「いままでの経験を、時には裏切るようなキャラにしてしまうような新しいことを生み出すか？」など、多くの考えを記入いただきました。

ワークショップの途中、ジグソー活動(同じ課題に挑戦して話し合ってから、分野ごとの課題で集まっていたところ)の後、やってみた感想を伺いました。その際に書かれていたことを見てもみると、「同じようなことを自分の言葉にすると微妙な違いがあり、その比較がおもしろかった」「自分たちの班での消化不良の課題が他の班の人の意見によってつながって明確化されたとき、とてもおもしろかった」など、協調活動のやり方についてコメントされた方が多かったようです。ついで、「人は楽をしたがる。近道・公式は法則を見つけるのが好き」「いったん記憶したことを想起するとき、もう一度解釈がおこる」など、課題をもとに人の認知過程に関して言語化した方がいらっしゃいました。それぞれのコメントをなされた人数を表にしたものが表2です。

表2 ジグソー活動後のコメントタイプ別人数

協調活動のやり方に言及した人数	18
人の認知過程について言及した人数	8

こうした「協調活動」と「認知過程」についての気づきが、「協調活動」と「認知過程」の双方を合わせてポスターを作成するという、この後の活動を活発なものにしたのではないかと思います。

ワークショップ後に「協調学習の役割」をお尋ねした際の理由にも、「ポスター・セッションで考えている間に、3人のそれぞれの考えを、つなぎ合わせて、新しいキャッチとポスターが出来たから」「今日の活動はポスターという形にまとめるということでしたが、それぞれの方の考えを聞き、自分の考えが深まったように思ったから」「今回のワークショップのポスター作成時での「経験」から」など、ポスター作成についての記述が含まれていました。ポスターを作る活動そのものを協調過程ととらえ、資料だけでなく活動そのものを俯瞰的ないわゆる「メタな」視点でとらえてくださったのではないのでしょうか。

一方で、人の認知過程の原則を扱った課題と協調的な活動とを統合する際に飛躍があり、苦勞したというお声も頂戴しました。今後この類のワークショップを実施する際の課題とさせていただきます。ありがとうございました。

長い時間、ずいぶん集中して話し合われたのでお疲れになったかと思いますが、最後にご自身の言葉や図などの表現でポスターをつくっていただく活動で、ご自身が言語化した原則を持ち帰っていただけたことは確かだと思います。

今回は、こうして皆様に作っていただいたポスターを撮影した写真も同封します。これらの画像を近々ポータル上でも公開したいと考えております。なにかお気づきの点がありましたらご連絡ください。その他のご意見も info@coref.u-tokyo.ac.jp までお寄せいただければ幸いです。今後の参考にもさせていただきます。

当日は本当にありがとうございました。9月以降の活動についても鋭意計画中です。具体化し次第ご連絡差し上げます。CoREFのページも今後進化させていく予定ですので、時々ご覧ください。<http://coref.u-tokyo.ac.jp/>

またお目にかかれる折を楽しみにしております。暑さ厳しき折、ご自愛ください。